

旅行報告書

会派名 真志会

会派代表者 真野 頼隆

令和2年11月13日

旅行者氏名	旅行者氏名
真野 頼隆	谷口 明弘
木戸 理江	小路 貴紀
桑原 一知	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

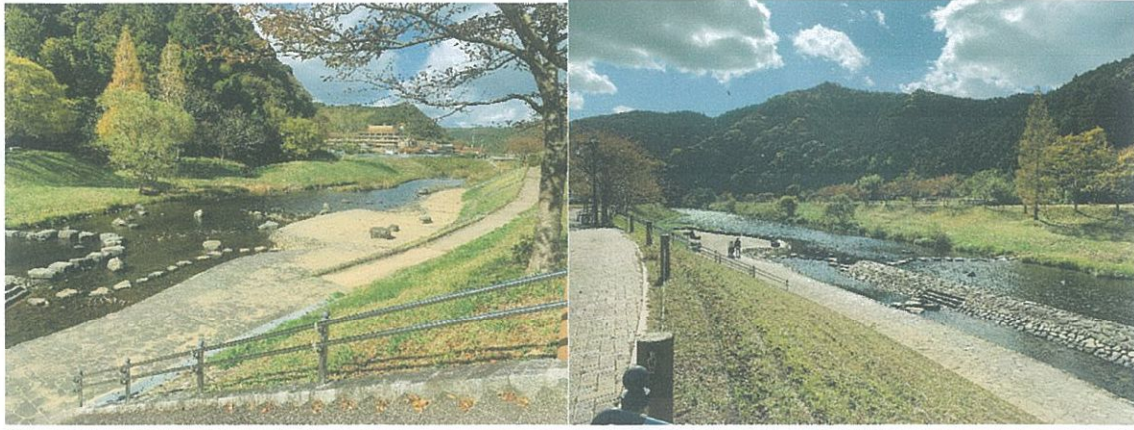
- 1 期間 自:令和2年11月9日(月曜日)
至:令和2年11月12日(木曜日) 3泊4日

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
山口県美祢市(11/9)	道の駅 みとう
山口県萩市(11/9)	道の駅 萩・さんさん三見
山口県長門市(11/10)	道の駅 センザキッチン、長門おもちゃ美術館、キッズクルーズ船弁天への乗船
山口県下関市(11/10)	道の駅 北浦街道 豊北
福岡県宗像市(11/11)	道の駅 むなかた
福岡県北九州市(11/11)	響灘風力発電施設、ひびき海の公園
福岡県太宰府市(11/12)	だざいふおもちゃのもり

道の駅「みとう」

R2. 11. 9



道の駅「みとう」の裏にある親水公園

水辺では魚や水鳥と触れ合うことができ癒される。



道の駅「みとう」～奈良の大仏さまのふる里



町の紹介

ここは、山口県美東町の大田です。美東町は人口6400人、面積129.49km²、農林業と観光主体の町です。山口県のほぼ中央に位置し、秋吉台国定公園の東半分を有し、瀬戸内の山口、小郡や宇部と北浦の萩・長門の中間に位置しています。古くは、奈良東大寺の犬仏建立の際、大仏様の料銅を蔵納した日本最古の長登銅山跡や、寛永通宝鑄銭所が銭屋に開設される等、銅の産地として栄えてきました。幕末には長州藩内の俗論派と高杉晋作らが率いる正義派による大田・絵堂の戦いが繰り広げられ、正義派の圧倒的勝利により、以後藩論が倒幕へと統一されたため、維新発祥の地ともいわれ、自然豊かで歴史ロマン漂う町です。

道の駅について

雄大なカルスト台地秋吉台のすそ野に広がるふれあいのオアシス・道の駅「みとう」は、国土交通省により平成9年10月22日道の駅に登録されました。道の駅「みとう」は、階層を結ぶ国道435・490号に位置し、美東町や周辺地域の交通・観光施設等の情報発信地の役割を担い、厚東川水系大田川の両岸は、自然景観を保全するビオトープや水辺で魚や水鳥と触れ合い安らぎをもたらす親水公園も整備され、交流館やショッピングセンターを併設した全国でもユニークな道の駅です。構内にある高さ約4mのふくよかな大仏様の石像は、奈良の大仏様のふるさと美東町のシンボルとして、道の駅「みとう」の竣工を記念し建立されたもので、来訪者の交通安全や願い事をきつとかなえてくれるでしょう。



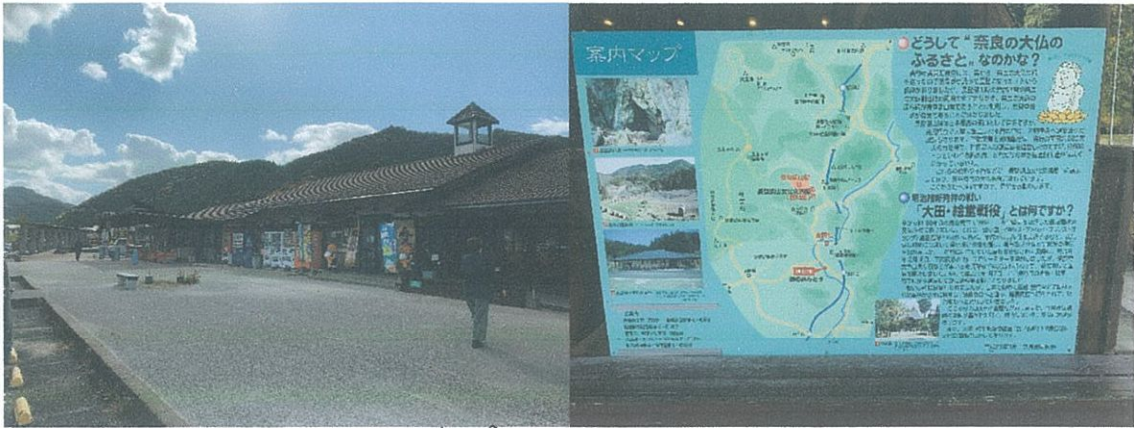
道の駅「みとう」施設の整備内容			
記号	施設名	整備主体	備考
(A)	駐車場①	山口県	道路事業
(B)	親水公園ビオトープ	山口県	河川事業
(C)	生産物食料供給施設	美東町	山村振興事業
(D)	交流の館と駐車場②	美東町	中山間事業
(E)	ショッピングセンター	民間	

山口県美東町を紹介したボード

町の紹介や道の駅について書いてある。

道の駅「みとう」

R2.11.9



道の駅みとうの全景 案内マップ
訪れたのは月曜日ですおまぼらだった。



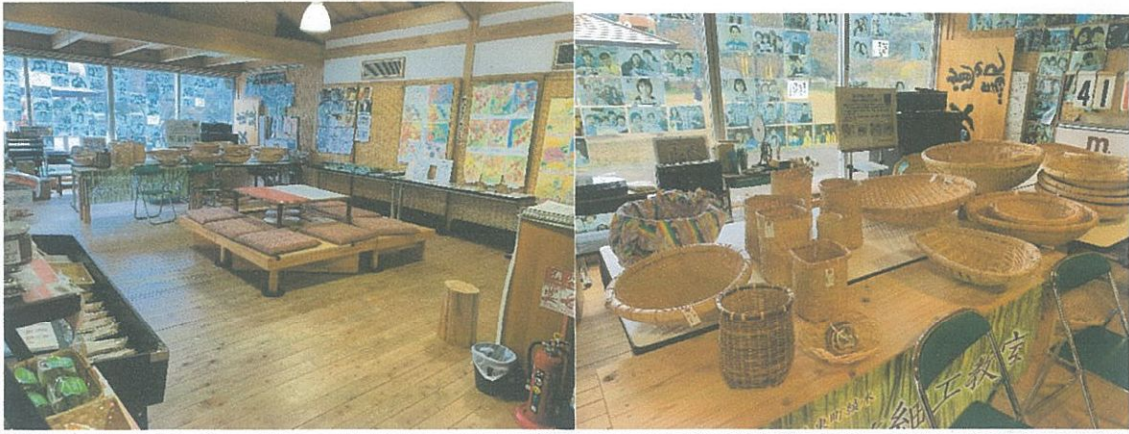
EV専用の充電装置 観光案内所
小さな町には充実している。



観光案内所 店内
有効活用されている感なし。品揃えが少なかった。

道の駅「みとう」

R2.11.9



道の駅の店内 市民が作ったと思われる所製品
レジには店員がおらず、ベルで呼んで出て来る始末。



道の駅の店内 観光地のパンフ、リーフレット等
観光案内所もあるが機能している感じがしない。



親水公園に面した所にはテーブルや椅子が配置されおり、
週末には市民や観光客の憩いの場となっている。

道の駅「萩・さんさん三見」 R2.11.9



道の駅「萩・さんさん三見」

インターを降りた所であり、後ろの方は日本海が広がっている。トイレ休憩をして、また自動車道に乗れる便利さ。



トイレも和風建築でしっかり互産根になっている。品揃えもまあまあで、後はいかに利用者増に繋げるか。

会派行政視察報告書

報告者 真志会 桑原一知

1. 派遣者

(真志会) 真野頼隆 谷口明弘 小路貴紀 桑原一知 木戸理江

2. 視察の概要

令和2年11月10日(火)

①道の駅「センザキッチン」・長門おもちゃ美術館・キッズクルーズ船

②道の駅「北浦街道 豊北」

3. 視察内容

①道の駅「センザキッチン」・長門おもちゃ美術館・キッズクルーズ船

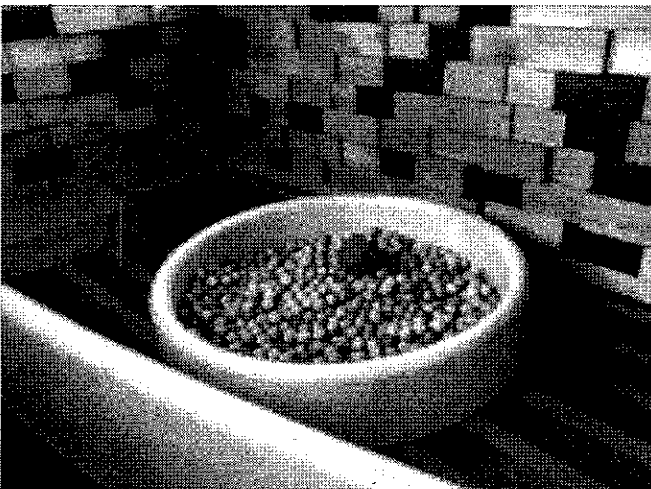
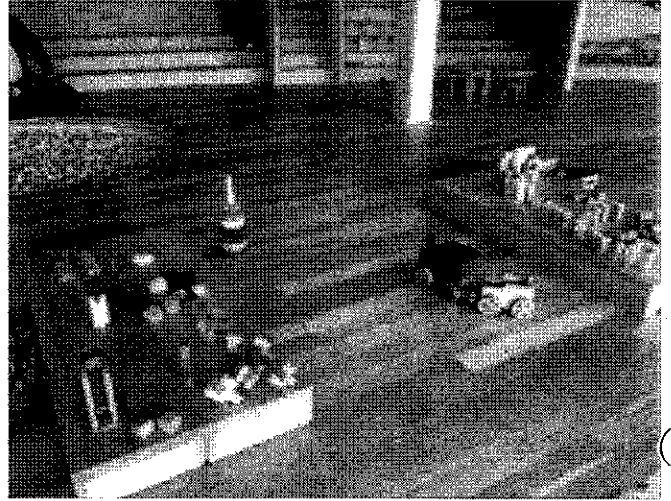
仙崎の海辺に立地されており、長門の新鮮な魚介や野菜を購入できる農水産物等直売所をはじめ、レストラン、バーベキュー小屋等で長門の食を満喫できます。

また、「長門おもちゃ美術館」は、美しい海と森林に恵まれた”森と海と人をつなぐ美術館”として設立された体験型ミュージアムです。

「おもちゃは子どもが生まれて一番はじめに出会う芸術である」という理念のもと、おもちゃと遊びを通じて、子ども達の自由な発想を導くとともに、親子で一緒に楽しみ、笑い、そして、自然を感じる素敵な時間を楽しむことができます。外に出れば木質化されたキッズクルーズ船「弁天」に乗船でき、船長気分で見聞の海の魅力を感じることができます。

施設の営業内容と運営は、大きく3つに分かれる。①農林水産物等直売所とテナントは「ながと物産」②観光案内所は「長門市観光コンベンション協会」③長門市おもちゃ美術館は、NPO 法人「人と木」がそれぞれ指定管理者として運営されています。

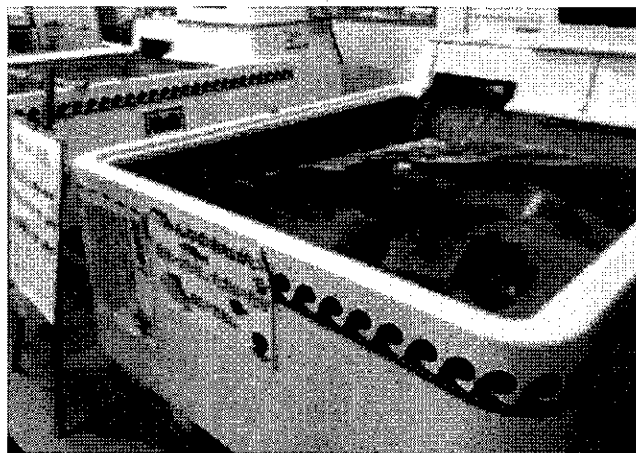
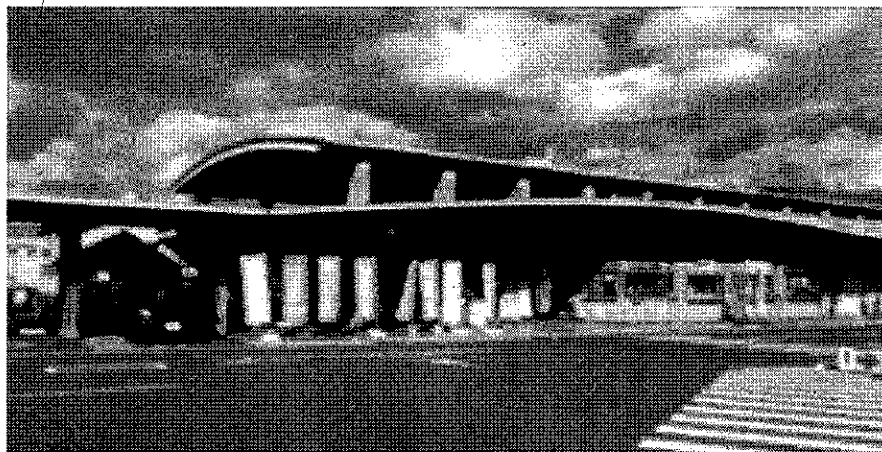




②道の駅「北浦街道 豊北」

道の駅「北浦街道 豊北」は、北長門海岸国定公園に指定された美しい景観の国道 191 号線沿いに立地されています。眼下には和久漁港を、水平線には角島大橋を遠望する丘の上にあります。地元豊北町をはじめ、北浦エリアで水揚げされたばかりの豊富で新鮮な魚介、採れたての果物や野菜など、四季折々の海の幸・山の幸が揃っています。

目を引くのが、敷地内の充実さです。物産品はもちろんですが、レストラン・パン工房・カフェテリア・屋外テナント・授乳室・多目的トイレ・電気自動車充電器・郵便ポスト等があり、このような施設充実であることから、旅行者から高く支持された世界中の宿泊施設、観光施設、レストランに授与される世界指標の認証であるトリップアドバイザー2018「エクセレンス認証」に認定され、旅好きが選ぶ 道の駅ランキングで2018年に全国 1 位にも選ばれています。



4. 所感

今回の視察では、人気があり集客がある物産館を中心に視察を行った。共通しているのは、物産品の販売だけが目的ではなく、空間づくりも重要としているところである。魚を陳列するだけでなく、魚市場を想像させるような空間であり「いけす」も演出のひとつである。

センザキッチンでは家族で半日はその場に留まる空間になっている。おもちゃ館で遊び、キッズクルーズ船で船長気分を楽しみ、レストランで食事をし、物産品を買って帰る。流れがスムーズである。

全ての年齢層で、個々の目的と楽しみがあるので、人気であるということは分かる。

おもちゃ館では木製のイルカを名前と共に、名札みたいに飾られますから、子ども達はまた遊びにくるという事で、リピートに繋がります。

本市の物産館計画では新たに木育ひろばやカフェテリア、BBQスペースなどありますので、今回の視察で収穫があった空間づくりやリピート率を上げる仕掛けなどを提案していきたいと感じました。

真志会行政視察報告書（山口県・福岡県）

真志会 木戸理江

1. 派遣者 真志会：真野頼隆、谷口明弘、小路貴紀、桑原一知、木戸理江

2. 視察日時、視察先、視察項目

2020年11月9日（月）～12日（木）

山口県（美祿市・萩市・長門市・下関市）、福岡県（宗像市・北九州市・太宰府市）

3. 視察概要

2020年11月11日（水）

宗像市：道の駅むなかた 北九州市：響灘風力発電施設、ひびき海の公園

宗像市 道の駅むなかた 水俣の道の駅リニューアル計画に向けた、他施設の視察。

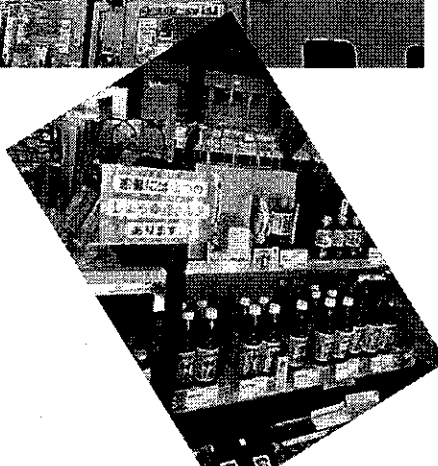
施設の概要

物産直売所・観光おみやげ館・レストラン・パン工房などからなり、直売所にはオープン前から買物客が並びカートにカゴを入れ品物を見て回る姿が多かった。支払いレジも4台フル稼働で数名ずつ並ぶ。寿司店や料理店の店主がその日の材料を買いに来るなど、種類も多く、何よりの売りは鮮度と価格との事だった。丸ごと一匹から刺身・冷凍品・加工品まで種類も品数も多い。

漁師が直売所に直接納入し、その際パックをして納めるか、バラで納めるかは魚の状態や大きさによってその都度変わる。丸ごとを求めても店で3匹まで客の希望に合わせて下処理をしてくれる（有料）、処理を行う従業員は専用のパート。基本的には売り切って終わるが、漁の状況によっては日に何度も納入される場合も。「天候と取れ高で変動」はすでに常識。

魚の名前はもちろん、お勧めの食べ方や調理法もポップ表記しており、各冷蔵ケース毎に売り場の担当者がいて、色々説明してくれる。

観光おみやげ館は物産直売所のラインナップとは一線を画してあり、地域の特産品・加工品などが数多く販売してある。名前のおり「お土産」や贈り物を買うために適した場所であり、使いやすい。



◇響灘風力発電施設 響灘に面する港湾工場地帯で複数の電力会社が共同で風力発電所を運営

施設の概要

現在、水俣市にも建設予定「肥薩ウインドファーム」の運営会社・JPOWER（電源開発）の案内で公園整備されている風車の足元や、水俣に予定している同規模の風車の見学等を行った。工場地帯の端に横一列に風車が並び、発電を行っていたが、風車が回る際の風切り音や羽の影（いわゆるシャドーフリッカー）を体感できた。

回転音は耳をすませば聞こえる程度、海からの風の音の方にかき消される。2キロ程沖で工事をしている音や別のエリアで建屋建設の現場の音や自分達の話声の方が大きい。

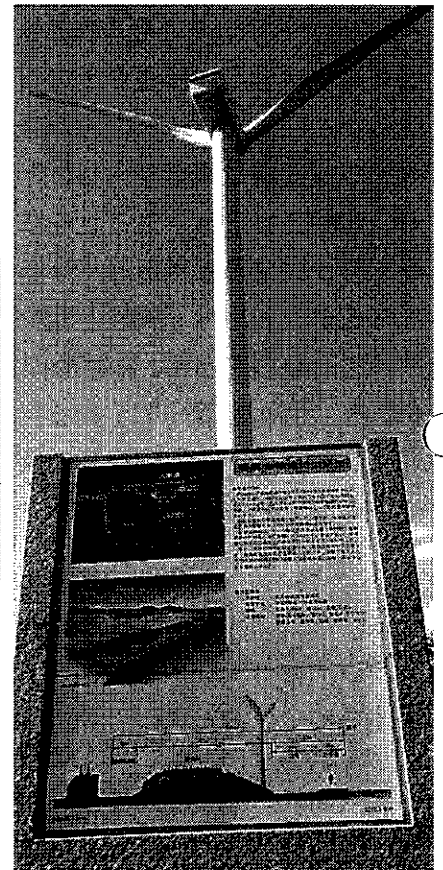
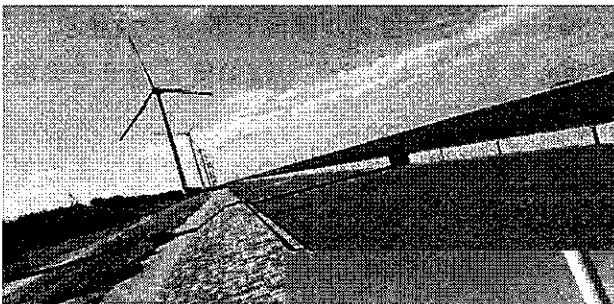
羽根が回転することで影が動くが、太陽とともにずれてくるため、気にならない。

音や影などを心配している人は是非この場所で体感した方がいい（風車から約50m）。

水俣に予定しているものと同規模の風車は、現地では鉄柵で仕切って近くに入れなくなっていたが、これは建設地の問題だけであって、予定地には（南大隅と同様に）すぐ足元まで低い草が茂り、近くまで寄れるようになるという。公園整備してレジャーや観光で人を寄せるためには、その方がいいと思う。ここでは営業運転というより、研究目的の色も濃く、NEDOなどの実証実験施設でもある。

水俣の建設予定では、地元の雇用はもちろん、運転開始してからの周囲のメンテナンス等、地元を協力をお願いするものが多いとの事。

風の強い時はリモートで羽根を止め、破損を避ける。定修は風の弱い季節を調査し順次行う。



隣接して公園やトイレも完備。魚釣りや休憩している人も多い。子供の遠足やジョギング・散歩などに利用されている。

◇ひびき海の公園

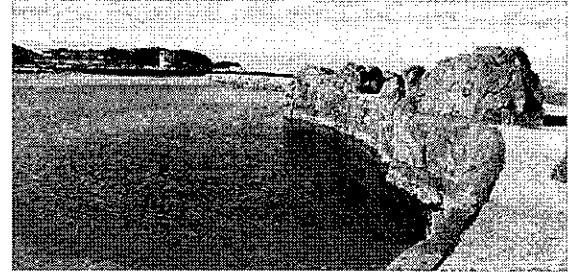
施設の概要

脇田海岸を埋立・造成し、人工海浜・フィッシャーマンズワーフ等に活用している。

水産庁・福岡県・北九州市の合同の事業。

海水浴場と船着き場・釣り場はそれぞれ区域分けしてあり、目的以外の利用はできないようになっているため安全性の配慮ができる。

物産館・結婚式場・マリーナ・人工磯・多目的広場・人工海浜・釣り桟橋・海水浴場



◇海の中道海浜公園

朝から「ホウキグサ」の群生を見るために立ち寄ったが、時期を終え抜き終わった後だった。

【所感】

水俣でリニューアル計画のある道の駅・物産館に、先進地の成功例が参考になればと視察した。道の駅むなかたはとにかく活気があり、顧客の定着と商品のスムーズな入荷がポイントであると感じた。鮮魚販売担当者によると、平成25年にオープンしてようやくこのスタイルにたどり着いたが、様々な試行錯誤があったとの事。

良い例を積極的に取り入れる事はもちろん、事業者の意識を高いところへ置き、なんとしてでも利益を上げるんだという意気込みをしっかりと持ってあたるべきだと思った。

風力発電所は、民間数社が集まって興している地帯で、水俣に計画されているものとは若干カラーが違うのだろうが、いわゆる「危険なもの」「存在悪」とされているものとは違う印象を持てることは感じとれるため、不安がある市民はここに来て体感してみるのが最も早い勉強になるのではないかと思う。百聞は一見に如かず、一方的な情報だけにとらわれず、自分の五感も使い、さらに学習を重ね、地域のためにどのような判断をすべきかを、しっかり学ぶべきだと思う。

視察報告書

視察地:福岡県太宰府市

日時:令和2年11月12日(木曜日)

視察内容:だざいふおもちゃのもり(大宰府遊園地内)

派遣者:真志会(真野頼隆議員、小路貴樹議員・桑原一知議員、木戸里江議員、谷口明弘議員)

“だざいふおもちゃのもり”は福岡県太宰府市の太宰府遊園地内にある幼児や低学年の小学生向けの屋内遊戯施設。太宰府天満宮の敷地内にあり、太宰府天満宮と西鉄が共同で出資、運営は主に西鉄に委ねられている。

もともと、イベントなどに10数年利用されてきたが、2020年9月18日に天候や気象条件に影響されない屋内型の木に包まれた木製遊具と木のおもちゃで遊べる施設としてリニューアルオープンした。デザインやプロデュースには、水俣道の駅を監修プロデュースする砂田氏が関わっている。

入園料は一人500円(1時間以内)0歳~12歳は保護者同伴。広さ的には水俣の道の駅に建設予定の木のおもちゃ館の同程度。視察当日もオープン直後に親子連れで訪れるお客様が見え、また、保育士を目指す女子大生が5名、見学に訪れていた。施設の人によると、オープン以来、来館者は安定的に来ていて、雨の日でも来館者があるとのこと。

また施設のPRのために、SNSを使った広報に力を入れていて、インスタ映えを狙った仕掛けもあり、狙い通りにお客様がインスタにハッシュタグをつけて発信してくれることが多いそうである。水俣も参考にする点が多々ある。

施設を有料にすることで、新しいおもちゃの購入や、独自のイベントも企画しやすいので有料は必須であると思う。

九州内でこれらの施設はまだ少ないので、早めに建設して、既存の施設との連携を図るべきであると考えている。

